

(2)秘密保持(confidential)、(3)独立性(independent)、(4)専門性(expert)、その他に信頼性、迅速性、システム指向、効果的が挙げられる。

専門学会関連

日医の提言の基本となった救急医学会案(平成21年)や近々の脳神経外科学会案(平成24年)が、医療安全を考える上で重要である。院内調査で不服案件となった例や重大で困難な案件に対しては、第三者委員会を開催しようとするもので、構成員は医療専門家と裁判経験を有する弁護士(医療側)と公正中立な立場の外部委員としている。さらに円滑な調査を行う上では、当事者が黙秘しないように懲罰は排除することが重要との見解を示した。

この脳神経外科学会案では医療事故調査はpeer reviewとしての「自律」した医療専門家による調査であるべきで、遺族やその関係者の不信感、処罰感情を払拭できないことと「自律」とは別の次元であるとしているのが特徴である。

患者側、マスコミ報道関係

本年6月には厚労省の約3年ぶりの事故調査再開を契機に「患者の視点で医療安全を考える連絡協議会」(患医連)主催の医療安全シンポジウムが国会議員会館ホールで開かれた。この会は患者側に立って

おり、主に第三者機関として医療機関から独立した事故調査委員会の早期設立を求める署名活動を行っているが、民主党など各政党にも患者主体の設立を訴えている。

また、マスコミ関係では、関係者のプライバシーを侵害したり社会生活を妨げるようなメディア・スクラムの問題や、放送倫理規制違反(平成11年、杏林大学割り箸事件における当事者主治医への誹謗、中傷)に対しての罰則規定の強化については、進展がみられていないのが現状である。

おわりに

これまで各関係団体、組織での医療安全の取り組みについて記述してきた。

最後に医療者側からみた医療安全、医療事故防止に関しては、医療行為における人的ミス(human error)は避けられないものであるとの前提で対応することが重要である。

医療安全の3つの柱に、(1)医療の質と安全性の向上、(2)医療事故例の原因究明と再発防止対策の徹底、(3)患者、家族との情報共有が挙げられようが、まさにこれらは今後の指標となりうる柱であり、これらを基本とした医療安全調査委員会の早期成立を願うものである。

北海道医師会

女性医師等支援相談窓口をご存知ですか?

北海道医師会では、お忙しい医師のために育児支援事業や仕事と家庭の両立を支援するために、現役の先輩医師による相談窓口を開設しています。詳しくは、以下の専用ホームページをご覧ください。



育児支援

病気や緊急時にご利用いただくもので、病院からの急な呼出し等で子どもを預けたい時、手術や急な残業でお迎えに間に合わない時、また、保育園・学童保育などで発病したがお迎えに行けない時などに当会が保護者に代わって送迎の手配を行うものです。



お悩みコーナー

ご相談内容に応じて、先輩医師が適切なアドバイスを行うことで問題解決の糸口につながる事ができればと考え、「お悩みコーナー」を設置しております。女性医師等が結婚・出産・育児等を機に離職することなくキャリアを継続していただくため、日頃考えていることや悩んでいることなどをお電話やメールなどでご相談いただくコーナーです。お気軽にご相談ください。



復職研修支援

復職を目指し研修を希望する女性医師等に対して、より身近な地域の医療機関において研修が受けられるよう、当会が医療機関へ委託し、研修を実施します。

北海道医師会 女性医師等支援相談窓口

- 詳しくはこちらをご覧ください 「女性医師等支援相談窓口」専用ホームページ <http://www.hokkaido.med.or.jp/josei-dr-shien/>
 - ご相談はこちらへ ☎ 0120-112-500 FAX 011-231-7272 E-mail josei-dr-shien@m.dou.jp
- 北海道医師会 〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目 <http://www.hokkaido.med.or.jp/>